



授業の記録

本時は、第3学年道徳における主題名「よい友達にB:友情、信頼」の授業である。友達のことをよく考えて、友達を大切にしようとする態度を育てることをねらいとしている。まず、「友達が宿題を忘れてきてしまいました。あなたは宿題を見せますか。」という事前アンケートの結果を提示した。その後、本時のめあてである、「よい友達とはどんな友達なのか考えよう」について確認した。



教材「なかよしだから」を提示し、事前アンケートの場面と教材の場面に少し違いがあることに触

れた上で、「自分が登場人物だったらどうするか」をワークシートに書かせた。その後、小グループで話し合い、その際各グループには、自分が「見せる派」か「見せない派」かを名前のマグネットで共有できるホワイトボードが配られた。児童はそのホワイトボードを参照しながら話し合いを進めていった。

「私だったら見せます。理由は、友達に嫌われてしまうかもしれないからです。」

「僕は見せません。宿題を忘れたからって人にみせるのはよくないと思うからです。」

小グループでの話し合いが終わると、教師は各グループのホワイトボードを黒板に掲示し、全体共有が始まった。

「見せる。理由は、見せて自分に損がないから。

恩を返してもらえるといいことがある。」

「見せない。もし教えちゃったら将来のためにならない。」

「今の意見と似ていて将来のためにならないから。

大事な友達が将来困ってほしくない。」

「見せる。友達関係を崩したくない。」

「見せない。自分で宿題はやるもの。自分で忘れた責任があるから。」

「見せる。先生に怒られたらかわいそう。」

「見せない。なんで見たのと怒られるかもしれないし、見せた方も悪くなるから。」



教師は児童の意見に「それってどういうこと？」と交通整理の発問を入れて話を掘り下げながら、「見せる」「見せない」を分類して板書した。

その後、他クラスや4年生のアンケート結果も提示し、その理由を紹介した。めあてに立ち返り、いくつか場面を例示したうえで、自分が考える「よい友達」についてワークシートに書かせた。児童が考えを書いた後、机を中央向きの型に変え、全体で話し合った。



「気軽に話せる人がよい友達だと思う。」
 「判断力のある友達がよい友達。」
 児童は自分が意見を発言した後、「質問はありますか。ほかの意見はありますか。」と言い、相互指名で考えをつなげていった。
 「自分の意見を言える友達。」
 「嘘をつかない。信用できる友達。」
 発言する児童が減ると、教師は「自分と同じ意見や違う意見はありましたか。」と問いかけ、さらに話し合いが続いた。

「自分の事を思ってくれる人。」
 「助け合いのできる人。」
 「一緒にいて楽しい人。」
 「今の意見に質問です。どういう時に楽しいと、よい友達だと思うのですか。」
 「中休みや昼休みに一緒に仲良く遊ぶ時です。」
 教師は、児童から出る意見を次々に板書した。
 「いい友達って、友達に頼ってばかりではなく、自分の力でできる友達の事だと思う。」
 教師は、
 「友達の考えを聞いて考えが変わったり気付いたりしたことがある人。」
 と問いかけた。



「いろいろな意見が出たけれど、友達がいるとよいことがたくさんあるということが分かった。」
 話し合いの場面では、ファシリテーションの工夫として、ちよんせいこ氏の提案する「ファシリテーション6つの技術」から「あいづち」や「質問」の技術を活用しながら話し合いを進めた。

オープンクエスチョン(例)	あいづち(例)	クローズドクエスチョン(例)
① ～というと？	① うんうん	① 「この時Aさんはどう考えていますか」
② どんな感じ？	② なるほどなるほど	② 「同じ(似た・賛成)考えの人はいますか。その理由は。」
③ たとえば？	③ わかる わかる	③ 「違う(反対)考えの人はいますか。その理由は。」
④ もう少し詳しく教えて	④ そうなんだあ	④ 「〇〇さんはこのように述べていますが△△さんはどう考えますか」
⑤ 具体的にどんな感じ？	⑤ へえ	⑤ 「〇〇さんの意見を詳しく説明してください。」
⑥ どんなイメージ？	⑥ それで それで	⑥ 「あなたなら、どうしますか」
⑦ エピソードを教えてください。	⑦ そっかあ	⑦ 「キーワードは？」
⑧ ほかに？		



教師は児童から出た考えを確認し、授業の振り返りと3段階の自己評価をワークシートに記入させた。

「これからは、自分の意見をしっかりと言い、友達の意見もちょうんと聞きたい。」

「本当の友達として一緒に進んでいきたい。
本当の友達は、心から信頼できること。」

最後に、教師が学生時代にバスケットボール部に所属していた時の友達についての説話をして授業を締めくくった。

協議会の記録

授業者自評

子供たちなりに自分にとっての「よい友達とは」について考えることができたと思う。「対話型鑑賞」に定期的に取り組み、どんな考えも否定せずに受け入れられる安心感を作れるようにした。事前アンケートの提示が対話のきっかけになるように工夫した。授業中の発言回数や発話ターンの分析結果を見ると発言児童に偏りがあり、ファシリテーターとして対話をよりつなげていけたらよかった。

協議会(ワールドカフェ方式)

ブースA 「ファシリテーターとしての授業者の姿について」

【意見】机を動かすことが効果的だった。どの学年でも使えそう。

【意見】オープンクエスチョン・クローズドクエスチョンを用いた教師の声掛けによって話が広がり、自分事として考えやすかった。

【意見】児童が話しやすい、質問しやすい話題だと話がより広がりやすくなるのでは。

【意見】個、グループとメリハリをつけて学習形態が変化したのがよかった。

ブースB 「目指す児童の姿の姿について」

【意見】目指す児童像を3段階に分け、振り返りで見取った。

【意見】今か将来か、いつの友達のことを思ってなのかを聞いてもよかった。

【意見】見せなかった友達はよい友達なのか、ということについて聞いてみてもよかった。

【意見】「見せる」「見せない」の真ん中あたりに置く児童がいた。

【意見】宿題を忘れる頻度によっても「見せる」「見せない」の意見が変わるのでは。

ブースC 「対話的で協働的な学びの実現のための手だてについて」

【意見】アンケート結果があったことで話しやすかった。

【意見】他のクラスや異学年のアンケート結果を見たことで、自分の意見以外の多様な意見を知ることができ話し合いが深まった。

【意見】児童同士の話が噛み合っていないときがあった。

【質問】教室の真ん中を向く座席配置では、どのようにすると話し合いが活発になるのか。

【意見】アンケート結果を円グラフで見せると、影響を受けて意見が偏ることもあると感じた。

指導・講評【帝京大学教育学部初等教育学科長 福島健介先生】

ファシリテーターとしての教師の役割が具体的だった。「場を作る」ことは、座席の向きや配置、友達同士の関係性で、心理的安全性を確保することをいう。様々な方法があるが、自分のクラスでの最善の方法を考えることが大切だ。「進める」ことは、認知心理学でいう子供の考える足場を作ること（スキヤフオールディング）。「広げる」は、異年齢や異集団との関わりを意識することが大切である。「深める」では「思考をゆさぶる発問」と「ポジティブなフィードバック」のための、オープンクエスチョンとクローズドクエスチョンの使い分けが具体的にされていた。

道徳において、「広げる」「深める」ことは、どちらが正しいかのディベートではない。「様々な意見があるけれど、どちらにも価値がある」という話し合いになったのが良かった。しかしその中で、道徳的価値そのものに対して批判的な視点をもつことも大切。ここで言う「批判的な視点」は、多様にある価値観に対して様々な角度から検討し、本質を明らかにしようとする態度である。「『正直』や『友情』といった価値観はいつでも無条件に尊重されるのか？」と、お互いの概念が共有されているかを検討する必要がある。

オープンクエスチョンの例として挙げられた8つの質問技法は、それぞれ異なる認知的機能をもっており、感覚ではなくそれを言語化して理解しておく、場面による使い分けができるようになる。ただし、発達段階に応じて、同じ内容でも「言い方」を工夫する必要がある。

また、以前紹介した「対話型鑑賞」を実践した点がよかった。そして、評価に意欲的で、段階的な「目指す児童像」として3ステップに振り分けたことが面白かった。それぞれのステップに児童をどのような規準で振り分けたのかを言語化して共有しておくともよかった。AI テキストマイニングを用いて児童の考えを視覚的に分かりやすくする手法もある。

児童が意見を素直に発言しているところがよかった。児童どうしの意見を「つなげる」ところはまだ練習が必要。小グループの話し合いの際、ホワイトボードの「見せる」「見せない」の真ん中に自分の名前を貼っていた児童の話がおもしろかった。話し合いの中で質問をする児童がいたが、質問を受けた側の児童と意味の食い違いがあった。

1年間の校内研究を通して、とてもよい研究スタイルを見せてもらった。あえて教師のファシリテートを研究主題に取り入れたことがよかった。今後の学習指導要領では、ファシリテーションがキーワードになってくる。ファシリテートがどういうものを学校として勉強したことがよかった。学んだことを積極的に取り入れる教師の心構えは今後も続けてほしい。

今後は、対話が行われている場での思考の見える化や、成長を実感し意欲の向上につなげる評価の活用方法について、研究してもよいかもしれない。